

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市あじさい大学運営委員会（令和3年度第3回）		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課 電話042-769-8354（直通）		
開催日時		令和4年3月30日（水曜日）10:30～11:50		
開催場所		総合学習センター セミナールーム		
出席者	委員	10名（別紙のとおり）		
	その他	2名（相模原市シルバー人材センター職員）		
	事務局	5名（高齢・障害者福祉課長、他3名）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ  2 議題 (1) 市民大学「あじさい大学」  ア 基本的な方針(案)について  イ 令和4年度市民大学「あじさい大学コース」開講講座について  (2) その他		

# 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

## 1 開会

## 2 あいさつ

(小林委員長)

生誕40年。長い歴史を刻んできたあじさい大学の課題の掘り起こしとその要因分析や対策について、運営委員の皆様には、熱い思いと知恵を出し合っていたいただいた。

安藤副委員長には、会議の事前打ち合わせの段階から貴重な示唆をいただき、助けていただいた。さらに、佐藤部会長を軸に検討部会の委員には、最終的な詰めの作業として、新しい大学像を描き上げていただいた。また、地域包括ケア推進部長、高齢・障害者福祉課長をはじめ、事務局職員には、膨大な討議資料を作成していただき、私たちの議論の下支えをしていただいた。それぞれの立場でのお力添えにお礼申し上げる。

この運営委員会に携わらせていただき、貴重な学びを行った。それは、日々慣れ親しんできたルールや組織、仕組みに対して、時代を超えて変えてはならないものは何なのか、はたまた、時代の変化に即して、変えていかなければならないものは何なのかを見定め、見極めるには、確かな視座に立つことと、刻々の変化の兆しにいかに敏感であるかが問われているように思える。

いずれにしても、あじさい大学は「あじさい大学コース」として再生するが、新たな存在感のある形で芽吹いてほしいと念じている。

長い間の皆様の真摯なご努力に感謝の意を込めて、挨拶とする。

## 3 議題

次第に沿って、小林委員長の進行により議事が進められた。

### (1) 市民大学「あじさい大学コース」

ア、イについて事務局から説明し、質疑応答を行った。

#### 【主な質疑】

(八木(鉄)委員) あじさい大学コースについては、講座の検討やPRなど、全て高齢・障害者福祉課が担当するのか。また、講座開催場所の各区というのは、その区に住んでいる人しか応募できないという意味なのか。

(事務局) 講座の企画などのあじさい大学コースに係る事務については、当課で担当する。市民大学全体の事務については、生涯学習センターが担当する。講座の開催場所については、あくまで開催場所を示しているだけであり、相模原市民であれば、どの開催場所の講座でも応募することができる。

(小林(輝)委員) 委員長のあいさつの中で、変えてはいけないもの、そして変えていかな

ければいけないもの、という話があった。再編案については、これまで議論してきたとおりの内容であるが、変えてはいけないということについて、あじさい大学の目的である生きがづくりや仲間づくり、そして学んだことを地域に還元していく人材育成などは、これからもあじさい大学コースに引き継がれていくと思う。市民大学へ統合される講座についても、あじさい大学の考え方は引き継いでいくべきだと思っており、仲間づくりのきっかけや社会貢献、学んだ知識をボランティアで発表していく場などについて紹介していくことができたらいいと思っている。社会福祉協議会にはボランティアセンターや、ボランティアを登録して必要としている人へ紹介する「いるかバンク」というものがある。市民大学を受講した人へもこれらのことを紹介するなどして、社会貢献活動を促進できればと思っている。

(事務局)

市民大学へ統合するが、いままでの市民大学の基本的な考え方があり、新たにあじさい大学コースが入ってくる形になるが、あじさい大学コースの成果を市民大学連絡会などで紹介することで、あじさい大学コースの良い部分を市民大学へ浸透させていくなどができると思う。そのため、来年度のあじさい大学コース成果は大切だと思っている。

(小林(輝)委員)

市民大学で学ぶ人には色々な目的があるので、仲間づくりや社会貢献を強要するものではないが、それらを目的とする人もいるはずなので、その芽は摘まないように、情報を紹介していくことが必要だと思っている。

(板倉委員)

現在、地域住民の年齢構成を見ると、高齢者が4割くらいを占めるのではないか。これからは、いかにそういう人たちをフォローしていくか、いかに地域づくりに高齢者を活用できるかなど、これらを市の政策としていく必要がある。こうしたことで、ボランティアが育っていくのではないか。また、成功体験はそういうところから生まれてくるのではないかと思う。高齢者の持っている経験や知識などをいかに地域に還元できるか、これが地方自治体の大きな役割である。若い人よりも高齢者が多くなっていく社会において、高齢者は健康、スポーツをやっていればいいということではなく、生涯学習という観点から考えれば、高齢者の力を借りる時代だと思う。こういうことをもう少し考えていただければと思う。あじさい大学の講座をどうするかということではなく、市全体をどうしていくかということを考えていく必要がある。今後、検討して行ってほしいと思う。地域が荒廃してきている。昼間は地域に高齢者しかいない。こういう人たちがどういう認識をもっているか。あらゆる地域団体は、弱体化しており、消滅するところもある。高齢者が圧倒的に多くなるので、単なるあじさい大学の学習形態を変えただけでいいのか、今後、どのようにしていくかを考えていかなければいけない。

(事務局)

高齢者施策については、庁内で見直しを進めており、例えば、今後、認知症施策に力を入れていくなどの見直しを行っている。あじさい大学についてだが、制度が始まったころの高齢者と現在の高齢者では、数も違う

し、考え方も異なる。いただいた意見については、今後の検証などにも生かしていきたい。

(池田委員)

板倉委員の発言に同意する。高齢者の問題点を、どういう場で取り上げて議論をしているのかを聞きたいと思っていたが、今、事務局から少し話が聞けたと思う。ただ、具体性がないと思っている。ある程度の計画などがあればいいと思うが、1年後、2年後に振り返った時に、ほとんど変わっていないかったという結果になってしまうのではないか。

(事務局)

市では、第8期高齢者福祉計画があるが、今後、第9期の計画を策定するために、調査などを行うことになる。計画策定に当たり、その時の社会状況などを把握し、目標などを立てる。計画の進捗管理をしながら、また見直しなども行いながら、高齢者施策について検討していく。

(佐藤委員)

基本的な方針については、これまでの運営委員会での議論が反映されている案であるとの認識を持っている。継承すべきものは継承しているという感想を持っている。スポーツ協会について、35の団体が加盟しているが、体操協会やバウンドテニス協会、ペタンク協会、グラウンドゴルフ協会は、令和4年度のアじさい大学コースの講座で講師として協力させていただくことになっている。今後、ニーズにもよるが、様々な種目協会があり、スポーツ協会では「する、見る、支える」スポーツの推進に取り組んでおり、特に「支えるスポーツ」が課題であると考えているので、今後、アンケートなどの中で要望があれば、スポーツ協会が間に入り各種目協会へ講師依頼をしていく。また、指導者の育成にも力を入れており、しっかりとした指導をする中で、仲間づくりやスポーツを通じた社会課題の解決などに少しでも協力できればいいと感じている。

(平岡委員)

令和4年度のアじさい大学コースで健康体操を担当するが、健康体操の「伝えるコース」では、学んだことを地域に還元できるように、やりっぱなしで終わらないように進めていきたいと考えている。健康づくり普及員や悠遊シニアスタッフなど、行政の中で活躍する場があるので、シルバー人材センターとも連携しながら、次への道へつなげていければ、3年後の検証時に、良い報告ができるのではないかなと思う。アじさい大学OBの健康体操チームが市内で10チーム程度活動している。彼らが、アじさい大学が市民大学へ統合するという話を聞いて、寂しい思いをしているとのことであったが、健康体操がアじさい大学コースに引き継がれていくと聞くと、自分のいた場所がなくなるわけではないので、喜んでくれる人が多い。アじさい大学コースの中でOB会を紹介することができれば、アじさい大学を引き継いでいけるのではないかなと思う。アじさい大学コースは6回の講座で、回数が少なくなる分、講座修了後に風化してしまわないよう、既存の会と連携していければとも思っている。あと、アじさい大学コースの周知については、しっかりとやっていただきたい。

(事務局)

周知については、課題と認識している。6月からの受講者募集時には、市の広報紙、ホームページに情報を掲載する予定で、市民大学のホームペ

ージにも情報が掲載される。募集案内については、公民館など市の公共施設へ配架するので、見ていただきたい。

(堤委員)

新しいものに変えていくに当たり、色々な意見を集約していくのは難しいと思う。これから期待したいのは仲間づくりで、あじさい大学コースの講座内容を見ると、土曜日や夜間開催のコースがあり、高齢者だけの仲間づくりではなく、幅広い年代での交流や仲間づくりができるのではないかと思う。今後、どのような仲間づくりができるか、コースの内容にも期待したい。

(高井委員)

趣味の講座を設定せず、健康・介護関連の講座とした意図について、改めて確認したい。

(事務局)

高齢者の課題は様々ではあるが、これまでの議論の中で、健康・介護予防に注目し、これらを解決していくために、あじさい大学コースでは、健康・介護予防の講座を設定していくこととした。

これまで市民大学で、文化的な講座を実施した実績があり、令和4年度の講座はまだ決まっていないが、大学で実施する講座もぜひ受講していただきたいと考えている。

## (2) その他

OB サークル一覧の作成等について事務局から説明し、質疑応答を行った。

(池田委員)

OB サークルなどは、現在、どこで活動しているかなどの情報を登録する制度となっているのか。制度がなければ、今後の取扱いが無責任になってしまうのではないか。OB サークルなどの活動に対して、市は関与しないのではないか。今回なくなる講座については、民間の講座を活用してもらおうようなことになるが、行政で行う講座は料金が安く、民間の講座はそれよりも高いということがある。OB サークルも民間ということであれば、補助をしていくのかなど、ルールをしっかりと決めておかないと、結局何もやらないことになってしまう。

(事務局)

OB サークルについて、あじさい会館の自主事業であるあじさい大学 OB 作品展の実施に際して作成していた名簿があるが、情報が古いため、まずは、令和4年度中に最新の情報に更新する。これにより、会員を募集している団体の情報を、学びたい人や仲間づくりをやりたい人たちへ伝えることができるようになる。これらは、今後、ホームページでも検索できるようにしていきたい。このほか、情報提供を中心に、あじさい大学を引き継いでいく取組を実施していきたい。

(小林委員長)

これで本日の議題が終了となる。閉会によりあじさい大学運営委員会は解散となるが、その前に、あじさい大学を振り返りたい。

(事務局)

あじさい大学は昭和56年度に始まり、40年を超える歴史がある事業である。最初は7学科でスタートし、当時の定員が192名で応募者が570名、倍率2.97倍であった。当時は、受講料は無料で、平成17年度から有料化した。定員も増やし、平成8年度に応募者数が1,000人を

超えた。応募者数が最も多かったのは平成22年度で、この時は42学科で応募者数は2,126人だった。平成28年度には短期講座が始まった。

令和2年度と3年度は、新型コロナの影響で実施できなかったが、令和元年度までの修了者数は28,801人で、これまでの総学科数は60学科、講師数は、137人と7団体で、たくさんの講師の皆様に携わっていただいた。あじさい大学は、多くの皆様に盛り上げていただいた、40年の歴史がある事業であった。

(小林委員長) 本日の議題と振り返りは以上となるが、このほか、事務局からの発言はあるか。

(事務局) あじさい大学コースの周知について、4月1日号の広報紙であじさい大学が市民大学へ統合することについての記事を掲載する。6月1日号では、市民大学の募集記事を掲載する予定となっている。

(小林委員長) 最後にまとめを兼ねて、5年間の長きに渡り委員を務められてきた安藤副委員長からあいさつをいただきたい。

(安藤副委員長) ひとつの思い出だが、あじさい大学の応募者の定員オーバー時にくじ引きをして受講者を決定したことがあった。さて、委員の皆様におかれては、運営委員会の場で様々なご意見をいただき、とても感謝している。あじさい大学の目的は、仲間づくりが第1であったと思う。市民大学あじさい大学コースとなっても、学ぶだけではなく、仲間づくり、高齢者の居場所づくりも忘れないでほしい。また、将棋や碁の相手を探している高齢者もいると聞くので、様々な高齢者の課題にも対応して行ってほしい。

閉 会

## あじさい大学運営委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	委員長	出席
2	安藤 正義	老人クラブ連合会会長	副委員長	出席
3	小林 輝明	社会福祉協議会常務理事		出席
4	板倉 忠臣	老人クラブ連合会副会長		出席
5	八木 鉄雄	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
6	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
7	高井 登志子	公民館連絡協議会副会長		出席
8	八木 朋子	学識経験者		欠席
9	池田 直道	市文化協会 会長		出席
10	佐藤 暁	市スポーツ協会 常務理事		出席
11	平岡 亮一	講師代表（健康1）		出席
12	大沼 ケイ	講師代表（健康4）		欠席
13	欠員	学生代表		
14	欠員	学生代表		